

(様式 2-1)

(様式 2-1、2はこのまま p d f 化し、学内限定で公開します)

平成 28 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

申請学部・研究科名： 教育学部

事業担当者の職・氏名： 後藤太一郎

内線電話番号： 9 2 6 0

電子メール： goto@edu.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

3. 事業内容の別 (該当の□を■に変更)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

以下の事項について記述してください。ページ数は問いません。

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

海外の教育制度や教育現場の視察は、教員を目指す学生に、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大する機会となるとともに、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高める機会ともなる。また、グローバル化時代の今日、教員養成系においては海外の教育現場と日本の教育現場の比較体験や、学校教育と教員をめぐる諸課題に対する国際的な視野を広げ、教育のあり方や新しい教師像を考える機会となるような国際交流事業が望まれる。

本事業は、平成 23 年度より実施しているニュージーランドにおける教育研修プログラムを継続する。このプログラムは、ニュージーランドにおける教育制度に関する講義、オークランド大学近隣の幼小中学校園の学校現場の参観と省察、およびオークランド大学の授業参加からなる。本年度は教育研修の第 6 回目を実施した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

ニュージーランドでは急速に教育改革が進み、自立的な学校経営が推進され、教員同士の協同的な職能開発が行われている。教員を目指す学生がこのような教育現場に触れることで、教員になるためのモチベーションを高めると考え、すでに述べたような海外教育研修プログラムの計画を進め、23 年度に第 1 回目を実施した。23 年度は 9 名の学生が参加し、国際理解が深まり、留学、学習への意識も高まったと答えており、本プログラムは学生から高い評価を受けた。また、オークランド大学教育学部の国際交流担当副学部長をはじめ本プログラムに協力してくれた教員からは、参加学生が熱心で、態度がすばらしいことから高く評価され、プログラムの継続が確約されている。24、25 年度は各 10 名、26 年度は 14 名、27 年度は 12 名の学生が参加し、同様の成果を得た。これらの成果は、教育学部附属教育実践総合センター紀要や国際交流センター紀要に報告した。また、これらの実績から、25 年 8 月には教育学部との間で学部間協定が締結され、28 年 7 月に更新した。

(3) 事業実施結果

28 年度のオークランド大学教育学部における研修プログラムは以下の通りである。

研修期間は 9 月 3 日（土）～9 月 17 日（土）で、現地には 14 日間滞在した。これまでは現地 9 日間の研修であったが、今回より期間を長くした。11 名の学生が参加し、引率には事業担当者である理科教育の後藤太一郎と、学生指導として英語教育の荒尾浩子、学校教育の佐藤年明、および理科教育の國仲寛人があたった。学部授業である「教育実地研究」とし、事前指導を 4 月より 5 回行い、研修準備を進め

るとともに、研修後には省察を行うとともにレポートの提出を行なった。研修では、特別授業として、「ニュージーランドにおける教育事情」、「多文化教育」、「ESL入門」の他、オークランド大学教育学部の授業4時間、そして、幼稚園、小学校、中学校、高校の学校訪問、授業参観、省察を行った。今回も昨年につき4名の教職員が引率したことから、オークランド大学教員とともに、参加学生に行き届いた指導を行うことができ、学生は研修内容の理解を深めることができた。

	1日目 (土曜)	2日目 (日曜)	3日目 (月曜)	4日目 (火曜)	5日目 (水曜)	6日目 (木曜)	7日目 (金曜)
午前		オークランド到着	歓迎式 NZの教育事情	ESL	NZの多文化教育 NZの歴史	ESL	幼稚園視察 授業検討会
午後	出国	ホストファミリー	チーム作りアクティビティ	UAの授業参観	Howick Historical Village	UAの授業参観	オークランド西武観光

	8日目 (土曜)	9日目 (日曜)	10日目 (月曜)	11日目 (火曜)	12日目 (水曜)	13日目 (木曜)	14日目 (金曜)	15日目 (土曜)
午前	動物園見学	自由	小学校視察	中学校視察	高校視察	ESL	口頭発表プログラム評価	オークランド出発
午後	博物館見学	自由	授業検討会 口頭発表準備	授業検討会 音楽を通じたマオリ語と英語教育	授業検討会 口頭発表準備	UAの授業参観	コース修了式お別れ会	帰国

プログラムでは、学生成果をまとめて最終日に報告会を行い、プログラム修了書を授与された。

なお、今回は日本学生支援機構の海外留学支援制度（短期派遣）に採択されなかったために、国際交流助成事業により一人あたり32,000円の補助にとどまった。また、引率教員はすべて個人研究費、自己負担、あるいは科学研究費での出張となった。

(4) 事業の意義

学部として学生に多様な海外研修・体験の機会を提供することが、学部の国際交流事業として欠かせない。学生のための海外研修の推進は近年急速に進んでいるが、教員養成学部にあふさわしい、幼小中高すべての校種の教育現場の参観を主体とした英語圏での短期海外研修は本学部では過去に例がない。プログラム内容は、本学部からの提案が基本となっており、オークランド大学教育学部との協力により、完成度の高い研修プログラムを組むことができた。これは本学部の独自の取り組みの結果であり、この種の活動をオークランド大学教育学部と実施している例は、国内の他大学にはない。

プログラムは現地で13日間と長くしたことからこれまで以上に充実した内容であり、最終日には報告会を行うことで、学生は学びを定着することができた。短期間のうちに多くのことを学び、教員を目指す上での大きな意識改革となったと言える。学生のための国際化教育が推進される中で、本学部の英語圏での教育研修プログラムの実施制度として継続させることが必要と考えられる。

このように、本事業は学生の資質向上に大きな意義があるばかりでなく、学部としての特色ある海外研修プログラムと位置づけられる。また、将来的には教職大学院の授業としても位置付けることで、現職教員にとっても魅力的なものとなり、大学院生の確保につながることも期待できる。

(5) 事業の発展性

オークランド大学教育学部からは 29 年度と同様のプログラ実施の受け入れについては承諾を受けており、参加学生の募集も行い 16 名の希望者がある。これまでにオークランド大学を訪問した教育学部教員は 7 名であり、訪問を希望する教員も多い。オークランド大学学部国際交流担当副学部長は毎年三重大学を訪問しており、平成 28 年も 4 月に本学を訪問した。オークランド大学教育学部国際交流担当副学部長は 29 年 4 月に本学に来る予定であり、双方の交流が進んでいる。本プログラムだけでなく、短期外国語研修など、複数の交流プログラムも可能となっている。

(6) 第 3 期中期目標・中期計画における位置づけ

I-4- (1) -1-1: 世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の 20% とし、受入留学生数については第 2 期の平均に比べ 10% 増加させる。

に伴う活動。

I-4- (1) -2-1: 地域社会からの要望の強い国・地域にある海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築するため、国際戦略本部会議を中心に、国際的な教育・研究活動、国際交流事業、附属病院での国際的医療活動などに対して明確な意思を持った方針・戦略を策定する。

(7) その他

(助成に関する要望事項等)

昨年度と同様に、今回の申請も必要最低経費を申請しましたが、実際には多額の自己負担を伴うものでした。学部の発展につながる事業成果が得られ、オークランド大学の研修について来年度は第 7 回目を行う予定です。来年度も学生への補助や引率は必要ですが、かなりの自己負担をしなければなりません。学部だけでなく、全学への寄与にもつながる事業であることから、助成金額の増額を考慮していただけることを強く希望します。

平成 28 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

オークランド大学教育学部における教育研修の実施

教育学部（申請代表者・後藤太一郎）

教員を目指す三重大学教育学部生の国際性を育むための教育研修プログラムを、近年、急速に教育改革の進んでいるニュージーランドで実施することを計画し、オークランド大学教育学部の協力を得て実施した。この研修は、ニュージーランドの教育事情に関する講義、オークランド市内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校の授業参観と振り返り、およびオークランド大学教育学部の授業参観からなるもので、今回は第 6 回目となった。研修期間は現地 13 日間で、2016 年 9 月 3～17 日に行い、学生 11 名が参加し、教職員 4 名が引率指導した。ニュージーランドにおける自律的な学校経営、教員同士の協働的な職能開発、児童・生徒に応じた指導を直接見聞きすることができた。最終日には学修成果の発表を行い、修了証書を授与された。アンケートから、学生はニュージーランドにおける教育方法・評価に関する理解や、日本における多文化教育のあり方を学び、主体的学習力について向上したと回答していた。本学部において意義のある海外教育実地研究研修と位置づけられる。

平成 28 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

For the purpose of fostering international minds of the students of Faculty of Education of Mie University, an educational training program was conducted in New Zealand, where education reform is rapidly changing. The program was implemented in collaboration with the Faculty of Education at the University of Auckland (UA), which plays a central role in teacher training in New Zealand. This training program consists of learning about the educational system of New Zealand, classroom visitations of the kindergarten, the elementary school, junior high school, and high school including the review sessions of the visitations, and participation in some classes of the UA. The training period was 9 days during September 3 to 17. Eleven students participated in the program and 4 teachers of Mie University went to support their activity. The students learned about self-directive school management, cooperative professional development between teachers and guidelines to meet individual requirements of students. From the results of a questionnaire about this training, it was found that the students deepened their thoughts about the educational methods in New Zealand and their understandings about evaluation and multicultural education in Japan. In addition, their interest for studying international understanding increased as did their “motivation” and “independent learning abilities”, both of which are educational goals of Mie University. This program is planned to continue indefinitely as an overseas training program in our faculty.

